ローマでもわたしの証しを

2023年5月14日

使徒の働き　22章30～23章11節

序：エルサレムでの逮捕がパウロのローマ宣教の出発点
　弁明の機会：ユダヤ人の民衆、ユダヤの祭司長＆最高議会、ローマ総督、ユダヤの王

ユダヤ人の民衆（21～22章）：パウロが神殿を汚したと誤解、殺害しようとした
　ローマ軍の千人隊長がパウロを逮捕、取り調べ
　パウロがローマ市民権所持者と知って、釈放
（22章30節）：ユダヤ最高議会を招集させ、パウロの裁判
　訴えの内容：宮を汚した（宗教的な理由）
　ローマが関与するのは、政治・治安の事項

Ⅰ．ユダヤの最高法院での弁明　　23章1～10節

⑴人間の法廷に立ちながら、神の御前における弁明という意識

①社会的階級にこだわらず、「兄弟たち」と呼びかける

②自分の生活の原則：健全な良心によって、神の前に生きる

③大祭司アナニアの激怒・パウロの口を打てと命令

④パウロの反論：アナニアの権威は偽りと不正で塗り固められた白い壁
　神があなたを打たれる
　∵有罪が決定していないのに被告を打つのは律法違反
　アナニアの傲慢不遜な神も律法も恐れない態度⇒さばき
　白く厚く塗った壁＝崩壊の危険な内実を応急的に隠している

⑤側近の者の叱責：神の大祭司への非礼

⑥パウロの陳謝：大祭司にではなく、周囲の人々に向かって
　出　22・28の引用

⑵戦略的弁明

①議員たちはサドカイ派とパリサイ派から成っていた

サドカイ派	パリサイ派
死者の復活はない	死者の復活はある（≠キリスト教の復活）
御使いも霊も否定	御使いも霊も認めている

②パウロはパリサイ人（父祖も）、死者の復活の望みのことで訴えられている

③二つの派は対立、激しい論争、議会は二分

④パリサイ派の何人かが、パウロを弁護、擁護、無罪に言及
　さらに、紛糾、裁判は成立しなくなった

⑤パウロの身の安全が危うくなったので、千人隊長は再びパウロの身柄を
　強制的にユダヤ最高法院から兵営へと移した

Ⅱ. 主の励ましの御声

⑴その夜、力づくで引き戻されたローマ駐留軍の拘置所

⑵不安、孤独、失望、身に危険を覚えていたパウロに、
死と世に勝利された主が、彼とともにおられることを御声によって示された

⑶「勇気を出しなさい。」
①わたしはあなたとともにいるから
②わたしはあなたが疲れや不安で意気消沈することがあるのを知っている
③わたしは決してあなたを見放さず、守り抜く

⑷「あなたは、エルサレムでわたしのことを証しした」
①エルサレムで民衆や最高法院の前で、神の救いの御業、ユダヤ人ばかりか
異邦人宣教への召命のあかしをした

②エルサレム→ユダヤとサマリアの全土→地の果てまでの主の宣教のご計画の
確認、エルサレムではその使命を果たしたと主は認定し労ってくださった

⑸「ローマでも証ししなければならない」
ローマは帝都、中心、当時の地の果て
第三次伝道旅行中にパウロにローマ行きの志が与えられていた　１９・２１
「私はそこ（エルサレム）に行ってから、ローマも見なければならない」

Ⅲ. 結び

⑴「主の賜物と召命は取り消されない」　ロマ　１１・２９
生粋のヘブル人、厳格なパリサイ人、律法に熱心、迫害者への神の救い（by
恵みと信仰）
パウロは主の御名を異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ神の器
９・１５

⑵「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」
主は宣教命令を弟子たちに与えるだけでなく、実行できるようにともにいて
助けてくださる

⑶気落ちしたり、不安にさいなまれるご自身の子ども・しもべを慰め、励まし、
立たせ、前進させてくださる（使命を思い起こさせて）

⑷難しい状況をどう把握するか、どう打開するか、どのようなことばや行動を
用いるべきか、戦略も教え、導いてくださる

⑸過去の失敗や苦難を思い返して悔やむよりも、これからの未来の時をどのように
刻むかを考えよ　反省は必要だが、後悔は無益
後ろのものを後にして、目当てに向かって走ること

パウロは使命のある限り生かされることを知っていた
自分の地上の人生に終わりがあることを覚えていた
自分に与えられた賜物を、いつどう用いるのが最善か、常に考え行なった